

～ エルゴノミクス作業改善 ～ 生産ラインの 人間工学アプローチ

● “人に優しい” 工程設計の実現 ● 労働安全衛生管理の質向上と生産性向上を図る

開催日時 2026年 6月11日(木) **オンライン**
2026年12月 9日(水) **オンライン** 各回とも 10:00～17:00

対象 以下の部門のマネジャー、ご担当者
 ● 生産技術部門、製造部門、労務・労働安全衛生管理部門 ● シニア、女性の就業比率が高い作業職場
 ● 重い物のハンドリング作業など、いわゆる「重筋作業」が多い職場

講師 小田 哲氏
 (株)日本能率協会コンサルティング
 ワーク・メジャーメント&システム・デザインセンター
 センター長 チーフ・コンサルタント

参加料(税込) 法人会員：60,500円/1名
 会員外：71,500円/1名

※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。
 ※法人会員ご入会の有無につきましては、右記URLにてご確認ください。 <https://www.jma.or.jp/membership/>
 ※参加申込規定はお申込みページにございますのでご確認ください。

ねらい

エルゴメソッドとは、IEと人間工学(エルゴノミクス)を融合させた作業改善手法です。身体負担リスクの軽減を目的に、作業姿勢の分析と評価を行います。シニアや女性労働者の増加による「働きやすい職場づくり」を課題とする企業、自動化できないラインを多く抱える企業が近年この手法を導入しています。

改善というと設備投資を考えがちですが、“体の使い方”に目を向けると、多くの問題点を発見できることに気づきます。

本セミナーでは、エルゴノミクスの基本知識を学び、実際の工程設計や作業改善に活用できるようになることを目的としています。

あなたの職場でこんな問題ありませんか？

- ✓ 作業がきつい等の理由で従業員が定着しない / 採用に苦労している
- ✓ 女性や高齢者には無理がある職場になっている
- ✓ 腰痛で欠勤するケースが多い
→ケガを除く作業起因の疾病の約65%が腰痛です
- ✓ 自動化したいが多品種生産のため専用設備の導入が難しい
- ✓ 手扱いによる運搬が多く、作業者の負担が大きい

理想はもっとも身体負担が小さい「ニュートラル・ポジション」

参加者の声

- IEと似ている部分もあるが、違った視点で作業者の分析、作業を見直すという考え方がよく理解できた。
- エルゴノミクスに関して知見がなかったが、これを機に自社に持ち帰り取り組んでいきたい。
- 基礎から分析・解決までの方法を実技を用いた研修で大変わかりやすかった。
- 直感に頼るのではなく、現状分析に基づく改善プロセスを学ぶことができた。

プログラム 10:00～17:00 [昼食] 12:00～13:00

- 1 エルゴノミクスとは**
 - エルゴノミクスが生まれた背景、必要性
 - 日本におけるエルゴノミクスの重要性
- 2 身体エルゴノミクス [Physical Ergonomics]**
- 3 身体負担低減の改善手法**
 - エルゴノミクス分析 **分析演習**
 - IEとエルゴノミクス観点から作業を改善する
- 4 認知エルゴノミクス [Cognitive Ergonomics]**
 - マネジメントに必要な人間の認知特性を知る (視覚、聴覚、意識、選択的認知)
- 5 組織エルゴノミクス [Organizational Ergonomics]**
- 6 人に優しい職場づくり**
 - 情報処理の特性
 - 視覚特性
 - 聴覚特性
 - 皮膚感覚
 - 嗅覚・味覚
- 7 オフィスのエルゴノミクス**
 - VDT作業 (VDT: Visual Display Terminals)
 - 職場環境チェックリスト

<受講者特典>

- ① エルゴ分析データ・カード
- ② エルゴノミクス自己診断表

※プログラム変更される場合があります。あらかじめご了承ください。